

みずほCustomer Desk Report 2019/09/09 号(As of 2019/09/06)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	107.10
TKY 9:00AM	107.07	1.1035	118.15	GBP/USD	1.2326
SYD-NY High	107.10	1.1057	118.26	AUD/USD	0.6862
SYD-NY Low	106.63	1.1021	117.88		0.6807
NY 5:00 PM	106.91	1.1024	117.90		0.6850
NY DOW	26,797.46	69.31	日本2年債	-0.3000	▲1.00bp
NASDAQ	8,103.07	▲13.75	日本10年債	-0.2500	2.00bp
S&P	2,978.71	2.71	米国2年債	1.5382	0.51bp
日経平均	21,199.57	113.63	米国5年債	1.4304	▲0.30bp
TOPIX	1,537.10	2.64	米国10年債	1.5594	▲0.51bp
シカゴ日経先物	21,220	70	独10年債	-0.6400	▲4.35bp
ロンドンFT	7,282.34	11.17	英10年債	0.5015	▲9.50bp
DAX	12,191.73	64.95	豪10年債	1.0790	12.50bp
ハンセン指数	26,690.76	175.23	USDJPY 1M Vol	6.65	▲0.32%
上海総合	2,999.60	13.74	USDJPY 3M Vol	6.85	▲0.28%
NY金	1,515.50	▲10.00	USDJPY 6M Vol	6.90	▲0.23%
WTI	56.52	0.22	USDJPY 1M 25RR	-1.60	Yen Call Over
ORB指数	172.62	0.28	EURJPY 3M Vol	7.30	▲0.34%
ドルインデックス	98.39	▲0.02	EURJPY 6M Vol	7.45	▲0.21%

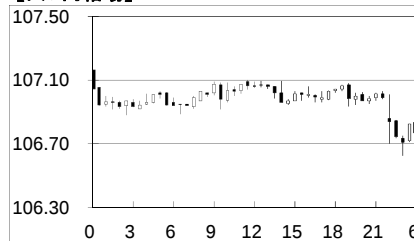
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
9月6日	15:00	独 鉱工業生産(前月比/前年比)	7月 -0.6%/-4.2%	0.4%/-3.9%
	18:00	欧 GDP(前期比/前年比)・確報	2Q 0.2%/1.2%	0.2%/1.1%
	21:30	米 非農業部門雇用者数変化	8月 130k	160k
	21:30	米 失業率	8月 3.7%	3.7%
	21:30	米 平均時給(前月比/前年比)	8月 0.4%/3.2%	0.3%/3.0%
9月7日	1:30	米 パウエルFRB議長講演	-	-

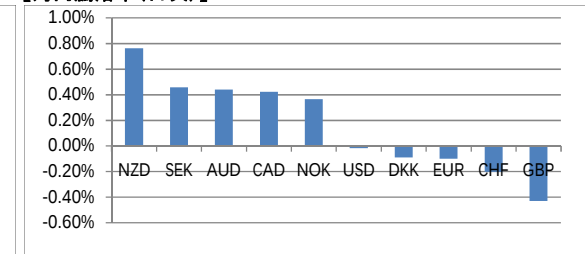
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
9月9日	8:50	日 経常収支	7月 ¥2046.0B	¥1211.2B
	8:50	日 貿易収支	7月 -¥24.0B	¥759.3B
	8:50	日 GDP(前期比/前年比)・確報	2Q 0.3%/1.3%	0.4%/1.8%
	15:00	独 貿易収支/経常収支	7月 17.4B/16.4B	16.8B/20.6B
	17:30	英 鉱工業生産(前月比/前年比)	7月 -0.3%/-1.1%	-0.1%/-0.6%
	17:30	英 製造業生産(前月比/前年比)	7月 -0.3%/-1.2%	-0.2%/-1.4%

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	106.40-107.20	1.0980-1.1080	117.20-118.40

【マーケット・インプレッション】

6日の海外時間のドル円は小幅に下落。発表された米8月雇用統計は非農業部門雇用者数変化が13万人増と、市場予想の16万人増を下回る結果となったことからドル売り・円買いが進行、ドル円は一時106.63円まで下落。NY時間午後に入り、パウエルFRB議長がスイス・チューリッヒでの講演で「リセッションは予想しない」など市場の期待よりもハト派色の弱い発言があったことを受けて市場はドル買いで反応、106.90円台まで上昇した。本日のドル円は上値の重い推移を予想。注目された米8月雇用統計は弱い結果となり、米金利低下を論拠付けられるものとなった。他方で、パウエルFRB議長の講演は50bpの大幅利下げ観測を後退させるものではあったが、一方で「景気拡大に向け、適切に行動する」と述べるなど、追加利下げを示唆している。107円台前半では実需の売りも控える中、上値を阻むには好材料に欠け、下落圧力が優勢になるだろうものと予想される。

東京	東京時間のドル円は107.07レベルでオープン。前日の強い米経済指標の結果や日経平均株価が強含んで推移したことを受けてリスクオフムードが後退し、仲値にかけて一時107.10まで上昇。その後は米雇用統計やパウエルFRB議長の講演を控え様子見姿勢が強く、値幅18銭と狭いレンジでの推移に終始し、107.01レベルで海外に渡った。(東京15:30)
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、107.01レベルでオープン。米雇用統計を控える中で小動き。中国が預金準備率を0.5%引き下げたがリスクオン効果は限定的だった。106.94-107.08の狭い値幅で推移し107.02レベルでNYに渡った。ボットドルは、1.2329レベルでオープン。週末を控えて前日までの上昇が一服。月曜に予定される政府の選挙を求める動議に野党勢力が反対で一致したとのヘッドラインもあったが反応は限られた。一時1.2288まで下落する場面もあったが1.2305レベルでNYに渡った。(ロンドン17:00 00531 444 179 神田)
ニューヨーク	海外市場のドル円は、中国人民銀行が預金準備率を引き下げを発表したが、米雇用統計発表を控え106.92-107.10での狭い値動きが続き、107.02レベルでNYオープン。朝方は注目の米8月雇用統計で、非農業部門雇用者数変化が予想を下回り、過去2か月分も下方修正され、不完全雇用率も増加し、ドル売りが持ち込まれ106.70まで急落する。週労働時間は増え、労働参加率も増加し、時給(前年比)も前回分が上方修正され、今回も予想以上に伸びたことから、インフレ上昇圧力に今後Fedの利下げの幅が思ったほどでなくなるとの見方から米株先物が上げ幅を縮小する動きに106.63まで下落する。その後は株式市場が下げ渋ったことから106.84まで戻す。午後は、パウエルFRB議長の講演で、「米景気は引き続き良好」と話し、「Fedはリセッションを予想していない」、「中銀は通常あまり景気刺激の余地がない」等、やや幼派と取れるような発言が続いたことから、ドル買い戻しが優勢となり、106.94まで戻す。終盤に掛けては、週末を控え、狭いレンジでの推移が続き、106.91レベルでクロスした。一方、ユーロドルは海外市場で1.1051まで戻す局面があったが、その後ドル買いが優勢となり、1.1023レベルでNYオープン。朝方は米雇用統計後に強まったドル買いに、ユーロドルは1.1057まで戻す。その後は再びドルが買い戻される展開に、1.1039まで下押しする。午後は、パウエル議長の講演を受けたドル買いに1.1023まで下落し、終盤は週末を控え狭いレンジでの推移が続き、1.1024レベルでクロスした。(NY井上)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨を申し出ください。

担当: 小笠原・玉井